



柿

1学年たより VOL.4



みかん

2学期中間中間考査直後
文化の秋、スポーツの秋
R6.10.29(火)発行

1. 2学期中間考査

学年平均点は以下の表の通りです。別途配布される個人成績表にて、各自の学年順位、クラス順位の確認ができます。

現国	言文	歴史総合	公共	数学I	数学A	物理基礎	生物基礎	英C I	論表I
64.2	42.0	59.6	58.9	64.3	47.8	47.6	61.4	64.7	64.1

各自の得点を学年平均点と比較し、努力すべきところがある人は期末試験に向けて決意を新たにしてください。

ここで、もう1回進級の条件を確認します。

- 1学期、2学期、3学期の成績をトータルして学年末の成績がでます。
- 学年末の成績で欠点（39点以下）が4科目以上あると、原級留置（留年）が決定してしまいます。
- 欠点が3科目以内の場合は追認考査を受験することができ、追認考査に合格すれば2年生に進級できます。

2. 文化の秋、スポーツの秋

2学期は、外部講師をお招きしての講演会、講話等が多くあります。いろいろなテーマのものが用意されており、有意義な内容になっておるはず。真剣に取り組み、自身の見識を深めるよう努力してください。（すでに終わったものもありますが、これからもたくさんあります。）

また、これからはしばらく期末試験までの間は、季候も良く、何をするにも頭や体が良く動く時期です。運動部の生徒は部活動に集中できる時期であります。部活動がそれほど忙しくない生徒は、図書館から本を借りるなどして読書に励んでみるのもよいと思います。与えられた時間を大事に過ごしてください。

3. 次のような文書を発見しました。 「アイツとオレ」というタイトルです。

オレはアイツに対抗心を燃やしている。
成績、スポーツは同レベル。友達の数はおれが上？
なのに、アイツの余裕と大人っぽさが腹立つ。
オレは、クラスの一人が嫌いで無視したりからかったりしている。
そのことについてアイツが話しかけてきた。
アイツ
「嫌いなものは仕方がないが、複数でやるなよ。」
オレ
「それはオレのせいじゃなくて、オレって人気があるからみんなが勝手にくる。おまえ、そのこと妬んでる？」
アイツ
「君についてくる人は自分がいじめられたくないからじゃない？
誰かに嫌がらせをする奴って、憧れの対象になる？」(※)

とあるクラスの同級生同士が対等の立場でしている会話がメインです。短くて、具体的な状況が分かりにくい文章ですが、なんとなく理解できる面も多くあると思います。この文章には様々な周りの人への感情(思い)が出てきますが、皆さんには、ライバル心を燃やすような相手、嫌いな人、また、憧れの対象となるような人はいますか？学校には大勢の人がいるので、いろいろな人に対していろいろな感情を抱いてしまうのはある意味当然のことかもしれません。

次のことを考えてみてください

1. なぜアイツはオレにわざわざ話しかけてきて、このようなことを言ったのでしょうか？
2. アイツの最後の言葉(※)をオレはどのように受け止めたと思いますか？

答えは私も知りませんが、

1. については、誰かが嫌がらせをされている様子を見て、不快に思う人は多くいるはずです。
2. については、アイツの言い方もかなりキツいなという感じがします。話の筋は一応筋は通っていきそうですが、言われたオレは頭に血が上るだけで問題解決にはならないかもしれません。話の仕方も重要です。

4. 2学期、今後の主な活動

(1) 進研模試 11月2日(土)

全員参加です。進研模試は2年次まで年3回ずつ行われます。国語、英語、数学は積み重ねにより学力を高めていく教科なので、中間考査、期末考査のような指定された範囲内ではない本当の総合的な学力を知ることができます。また、将来大学等へ進学を希望する生徒には、模試の結果を積み重ねることにより、志望校を決定するために大変助けとなる参考資料を提供してくれます。定期考査とともに、真剣に取り組んでください。数学では、直前に対策演習を行います。

(2) 人権教育同和教育学修授業 11月12日(火)

この日は、部落差別の歴史について学習します。本校では年に数回ずつ様々な内容の人権教育・同和教育の授業や講演会を予定しています。見識を深めていってください。

(3) ベネッセ進路講演会 12月12日(木)

ベネッセの講師に来校いただき、大学入試等、進路決定に役立つ講話をいただきます。終了後、複雑さが増してきた最近の入試の状況について、保護者への説明をしていただきます。

(4) 小論文学習 12月17日(木)

小論文の書き方を練習し、1月に行われる小論文模試、2月に行われる小論文講演会につながるものです。本校は推薦入試で進学する生徒が多いため、将来必要となる生徒は多いはずですが、筋の通った文章を書く練習はいろいろな場面できっと役立つはずですが、この取り組みは、2年次も継続して行われます。

また、1月にはリクルートさんによる講話を予定しています。

4月の学年便りの以下の問題、覚えているでしょうか。

(天秤ばかりの問題)

クイズ：10個のおもりがあり、そのうち一つだけ重さの違うものが混じっている。その一つが他より重いのか軽いのかは分かっていない。天秤ばかりを3回だけ用いることによって、重さの違う一つを特定してください。

(解答は以下の通りです。)

10個のおもりを3個、3個、3個と1個に分け、3個のグループをA、B、Cとします。

まず、A、Bのグループを天秤に乗せ

(あ) 天秤がAが重い方に傾いた場合

AとCを天秤に乗せます。

・釣り合えばBの中に軽いおもりが1個あるということになります。

Bから2個を天秤に乗せ、傾いたならば軽い方、傾かなかったならば残りの1個と特定できます。

・Aが重い方に傾けば、Aの中に重いおもりが1個あるということになり、上述と同様に判断できます。

※Aが軽い方に傾いた場合も、上述と同様に判断できます。

(い) 天秤が釣り合った場合

AとCを天秤に乗せ、

・釣り合えば、A、B、Cの9個は全部同じ重さということになり、A、B、C以外の1個ということになります。その1個とA～Cの1個を天秤に乗せれば、その1個が軽いのか、重いのかも分かります。

・Cが軽い方に傾いた場合は、Cの2つを天秤に乗せ、上述と同様にすれば判断できます。重い方に傾いた場合も同様です。



ぶどう



栗